

## これまでの経緯

● 2014年12月から2015年9月にかけて数回、JCDN主催プログラム「習いに行け！東北へ」プログラムにてダンサー（磯島未来、今津雅晴）・音楽家（阿部一成、櫻田素子）・美術家（田中望）の5名が、2011年の津波被災地である、岩手県上閉伊郡大槌町の白澤鹿子踊保存会伝承館にて鹿子踊を習い、9月の「大槌まつり」に共に参加。

● 2015年12月には、サンプロのプログラム「インドネシアと白澤鹿子踊の芸能交流」で、白澤鹿子踊より7名が、芸能の宝庫バリ島と津波被災地アチェを訪れ、各地の芸能団体やアーティストたちと交流。バリ島では、バトゥブラン村の観光客向けバロンダンスを見学し、バロンの踊り手、イ・マデ・マハルディカ氏と交流。シンガパドゥのコーディ氏を訪問し、仮面舞踊トペンのレクチャーワークショップにて身体性や精神性、社会性などを学ぶ。また、ウブドのブンゴセカン地区にて、世界的に精力的に活動中のガムラングループ「スタマニ」スタジオを訪れ、リーダーのデワ・プラタ氏のナビゲートにより、子どもから大人までの日頃の練習の様子を再現したパフォーマンスを見学、白澤鹿子踊も返礼演舞、そしてグループ運営から多世代に渡る伝承の方法についてなど質疑応答を交わした。

● 2016年2月、櫻田が大槌滞りし、インタビュー、大槌町内各所見学等、公演のための事前調査。

● 2016年3月、国際交流基金にて「三陸国際芸術祭」及び「習いに行け」報告会にて白澤鹿子踊を演舞披露。

● 2016年8月26日～30日、白澤鹿子踊より3名と櫻田、春日（記録）がバリ島に入り、バロンダンスと白澤鹿子踊の打合せ、稽古。

● 2016年9月11日、三陸国際芸術祭メインプログラム（大船渡市盛町）に出演したバロンダンスチームが、白澤鹿子踊伝承館を訪れ、互いに交流演舞。

● 2016年9月15日～19日、大槌町白澤鹿子踊伝承館にて、白澤鹿子踊と、今津、磯島、田中、櫻田、春日（記録）との打合せ、稽古、及び、大槌まつりに参加。

以上の経緯と次のような視点をふまえて、稽古や話し合いを続けた。  
・鹿子踊、バロンのそれぞれの基礎や起源となっていると思われる動きや踊りはどのようなものか。  
・鹿子踊、バロンのそれぞれ、現在最もよく演じられている演目はどのようなものか。  
・鹿子踊を経験したコンテンポラリーダンサーらによって、何が見えてくるか。  
・異なる芸能の伝承者同士、または、新しいものを常に作り続けているアーティストが伝承者たちと出会い、対峙する時、また、協調する時、何が生まれるのか。  
特に、ミーティングや稽古のなかで互いに感じる事、踊りや芸能、身体性や出自、あるいは文化の在り方などについて意見交換を行った。交流し創作していく過程も本番と同様に、重要であると考えた。



photo 春日聡

平成 28 年度文化庁国際芸術交流支援事業

主催 / 企画制作：NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN)

共催：公益社団法人全日本郷土芸能協会、八戸市、みんなのしるし合同会社、一般社団法人三陸国際交流協会、一般社団法人アーツグラウンド東北

助成：損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)、GBFund (東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

協力：国際交流基金アジアセンター、アサヒビール株式会社、トヨタ自動車株式会社、心の復興推進コンソーシアム、一般社団法人 NOOK、からくわ丸、一般社団法人東北ツリーハウス観光協会、唐桑御殿つなかん、Rias Wood Lab. Kesenuma、環境省八戸自然保護官事務所、種差観光協会、種差インフォメーションセンター、白浜女房、(株)フォートセンター惣門、(公財)仙台ひと・まち交流財団宮城野区文化センター、カリタス大船渡ベース、大船渡市子育て支援センター「すくすくルーム」、大船渡市社会福祉協議会、The Burger Hearts、NPO 法人さんさんの会、NPO 法人遠野まごころネット

協力(本公演)：春日聡(バリ島・大槌まつり映像記録)、小原孝博(写真提供、撮影)、森隆宣(白澤鹿子踊)、作田和敏(白澤鹿子踊)、佐藤由美(バリ島招聘)、倉澤智世美、大久保哲、小原妙子、深石弘美、出口智子、ほか

後援：岩手県、岩手県教育委員会、青森県、宮城県、大船渡市、大船渡市教育委員会、陸前高田市、大槌町、気仙沼市、女川町、秋田市、岩手大学、岩手県立大学、一般社団法人大船渡市観光物産協会、大船渡商工会議所、一般社団法人大船渡青年会議所、大船渡市郷土芸能協会、さかり中央通り商店街振興組合、盛町商店会、東一番街商店会、(公社)八戸観光コンベンション協会、八戸市文化協会、東海新報社、岩手日報社、デーリー東北新聞社、東奥日報社、河北新報社、三陸新報社、IBC 岩手放送、岩手朝日テレビ、テレビ岩手、めんこいテレビ、NHK 青森放送局、HTV 八戸テレビ、ATV 青森テレビ、RAB 青森放送、ABA 青森朝日放送、FM ねまらいん、エフエム岩手、コミュニティラジオ局 BeFM、FM 青森



photo 春日聡

# 三陸国際芸術祭 in 六本木アートナイト 2016



日本の鹿子とバリのバロンはちがうけれども、  
神様や自然の大きな力を感じて踊っているのは、  
おんなじなんだね

俺たちは皆、一つなんだ。  
だからいつでも、皆で踊るんだ。  
それが俺たちだ。



日時：10月22日(土)

12:00-13:00 「シシの系譜」上演  
13:00-13:45 鹿子やバロンやガムランに触れてみよう  
場所：六本木ヒルズアリーナ



photo 春日聡

2014年から始まった三陸国際芸術祭(サンフェス)。2011年に津波によって甚大な被害を受けた岩手県大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市を中心に、地元の郷土芸能、アジアの芸能、地域の人たちと創るコミュニティダンス、そしてコンテンポラリーダンスを軸に開催しています。この三陸沿岸において、サンフェスと並行して、年間を通じて、Sanriku-Asian Network Project (サンプロ) という、アジアと三陸を芸能で繋ぐプロジェクトも 2015 年より行っています。サンフェスでは、主に公演・発表を行い、サンプロでは、アジアへの芸能のリサーチ、招聘、作品制作などを通して、未来に向けたアジアの芸能との交流を行っています。

現在そのサンプロの「新しいアジアの芸能を創出するプログラム」として、三陸の郷土芸能“白澤鹿子踊”、インドネシアのバリ島“パロンダンス”、そして昨年度「習いに行け！東北へ！」にて白澤鹿子踊を”習い”に行ったコンテンポラリーダンスのアーティストが集結し、新しいアジアの芸能を創出するための模索を続けております。

新しい芸能を創出するとは、どういうことか？そもそも芸能とはどのように始まったのか？伝統芸能と現代芸術との違いとは？接点は？各国にある独特な獅子たち、その根っこはそもそも繋がっているのではないか？、等々。異なる国や民族の芸能同士、あるいは伝統と現代とを、対比させ、組み合わせるのみならず、この機会に、100年、1000年続く芸能を、新たに生み出せたらという挑戦。今まさに、その新たな芸能の旅が始まったところ です。

今回上演される作品「シシの系譜」は、その旅の始まりを提示するものです。

「三陸国際芸術祭 in 六本木アートナイト 2016」として、六本木アートナイト実行委員会の協力を得て、六本木ヒルズアリーナで上演されます。

様々な想いを持って観ていただけたらと思います。



photo 春日聡



## 作品介绍：「シシの系譜」

岩手県とインドネシアは共に、郷土芸能・民俗芸能の宝庫。仮面を冠り装束をまとい、太鼓や銅鑼や笛の音で場を満たし、人々は何を感じ何を求めて、森の王者“シシ”※の出現を待つのか？白澤鹿子踊(大槌町)とバリ島の獅子パロン、ガムラン楽団、コンテンポラリーダンサーによる作品「シシの系譜」。白澤鹿子踊、バリ島のパロン、コンテンポラリーダンス、バリ舞踊家のパフォーマンスにより、私たちのなかから生まれ出る「シシ(獅子)」のイメージを現出させ、各アーティストや団体が交流してきた経験を内包させる試み。

※シシ・獅子舞の獅子、バリ島では聖獣、白澤鹿子踊では鹿を指します。

出演(順不同)：

**白澤鹿子踊保存会(岩手県大槌町)**

東梅英夫、東谷一二三、上野武夫、三浦貴志、白澤孝一、高清水千生、小国満男、菊池務、三浦智志、佐々木文哉、佐々木楓、藤原徳光、高清水涼真、阿部薫、村山忠彦、板倉謙、東梅吉代春、東谷侑奈

**パロン・ダンス(インドネシア・バリ島)**

イ・マデ・マハルディカ、デワ・グデ・グナ・アルタ

**ガムラン演奏**

イ・デワ・プトゥ・ライ(インドネシア・バリ島)

トゥラン・ブーラン(神奈川県横浜市)

櫻田素子、大竹真理子、久保田京子、小原眞巳、佐々木典子、塩川博義、田中沙織、錦織照子、根岸久美子、伏木香織、藤田栄子、宮城康夫、横山友美、吉田まゆみ、吉田ゆか子、渡辺泰子

**バリ舞踊**

荒内琴江(東京都福生市)、小泉ちづこ(千葉県南房総市)

**コンテンポラリーダンス**

今津雅晴(東京都世田谷区)、磯島未来(宮城県仙台市)

**衣装美術/白澤鹿子踊**

田中望(山形県山形市)

**ディレクション、構成、原案、音楽**

櫻田素子(神奈川県川崎市)

**白澤鹿子踊(うすざわししおどり)**

約400年前、江戸時代寛永年代に海産物の交易にかかわった人々を通じて房州(千葉県方面)から伝わったといわれ、初期には「房州踊」と称された。舞の種類は、神仏の礼拝祈願、人々や野生鹿の生活を模したものなど多種あり、その数は43種類にわたる。「しし踊り」は岩手と宮城に多数伝承されているが、岩手県の旧南部藩領に伝わる、しし踊りの特徴は、「ドロの木」を薄く削ったカンナガラを縫い前面を大きな布で覆っていることから、「幕踊り系しし踊」に分類されている。白澤鹿子踊は、太平洋を臨んだ風光明媚な環境にありながらも、北国の厳しく荒々しい風土に育まれたことで、明るく華やかな衣装に加え動きが激しく活力に満ちた舞である。



photo 森隆立

**I Dewa Putu Rai(イ・デワ・プトゥ・ライ)**

1977年生まれ。ISI(インドネシア国立芸術大学)卒業。インドネシア・バリ島の中で、ガムラン音楽と芸術絵画で知られるギャニャール県ウブド村ボンゴセカン地区出身。幼少の頃より地区で頻繁に行われるガムランの練習に触れ、演奏家である父のもと、4歳ですでにクンダン(太鼓)奏者としての才能を発揮、他の楽器も含め演奏家として活躍している。子どもから成人までの様々なグループのガムラン指導も行い、また優れた作曲家としても有名。伝統からコンテンポラリーまでこなす世界的に評価の高いガムラングループ、スダマニのメンバーとして、日本、アメリカ、オーストラリアなど海外公演に多数参加。



**Terang Bulan(トゥラン・ブーラン)**

ガムランは、インドネシアに主にみられる、青銅製、鉄製、竹製などの銅鑼や鍵盤打楽器、竹笛等によって編成される、世界的にも有名な合奏音楽。トゥラン・ブーラン(インドネシア語で「明るく輝く月」という意)は、日本を代表する実力派ガムラン・ユニット。櫻田素子によって3~20名まで自在に編成、ダンサーとの共演、バリ伝統曲やオリジナル作品、コラボレーションなど、東京・神奈川を中心に各地で精力的に活動。2009年バリ芸術祭、2014年バリ島でのゴング・クビヤール100周年記念祭にて公演、演奏力とオリジナリティに高い評価を受けた。



**磯島未来(いそじまみき)**

振付家・ダンサー。八戸市出身、幼少よりモダンダンスを習う。上京後「黒沢美香&ダンスーズ」に参加。2004年にダンスユニット「ピンク」を結成し、08年までに国内外11都市で作品を上演。日本女子体育大学・舞踊学専攻卒業。08年度文化庁在外研修員として、2年ベルリンに滞在。帰国後、自身が構成・演出を担うグループ「未来.Co」を立ち上げ、これまでに「オーロラに旅」「また、28日後」「月を運ぶ」の作品の上演を重ねる。グループ活動の他、踊ったことのない人からダンスを生むコミュニティダンス作品も創り、不定期にソロも踊る。2013年より仙台市在住。



photo 立花和政

**荒内琴江(あらうちことえ)**

バリ舞踊家/福生市生まれ。2000年愛知県立芸術大学彫刻学科卒業。彫刻で人体を学ぶ中で知った自然の形の不思議、美しさ、その感動をバリ舞踊の中に見る。00'-04'年東京都吉祥女子中学校高校美術非常勤講師勤務 04'-06'年インドネシア国立芸術大学舞踊科留学。バリダンス教室 Nagajepang 主宰



**櫻田素子(さくらだもとこ)**

ガムラン音楽作曲、古典・伝統曲の演奏、舞踊家・画家・映像作家・等、様々なアーティストとのセッション、イベント・プロデュース、ワークショップ指導・作品提供など幅広く活動。バリ島芸術祭にたびたび招聘され作品を発表。インドネシア・バリ島の芸能の招聘や文化交流、教育機関での指導(国際交流基金アジアセンター事業、文化庁事業等)にも携わる。国立音楽大学卒、横浜生まれ。東邦音楽大学大学院・日本女子体育大学 非常勤講師。http://www.yk.rim.or.jp/~onmoto



**I Made Mahardika(イ・マデ・マハルディカ)**

1972年生まれ。インドネシア・バリ島ギャニャール県バトゥブラン村デンジャラン地区の、芸術家の家系の家に生まれる。トベン(仮面舞踊)の優れた踊り手として有名な故イ・クトゥッ・スウェチャ氏を父に持つ。7歳より男性舞踊の基本であるパリス(戦士の舞)を踊り始め、やがてトベン(仮面舞踊)、そして、聖なる獅子パロンに魅せられその踊り手となり、現在に至る。踊り手、役者、クンダン(太鼓)奏者としてもその才能を発揮し、伝統からコンテンポラリーまで幅広いジャンルで活躍している。



**Dewa Gede Guna Arta(デワ・グデ・グナ・アルタ)**

1987年生まれ。インドネシア・バリ島・ギャニャール県ウブド村ボンゴセカン地区出身。幼い頃より父に連れられ、地区のガムラン音楽の練習に参加し、いつの間にか演奏をするようになっていた。また近年、パロンの踊り手、マハルディカ氏の後ろ足役としてパートナーシップを組んでいる。伝統からコンテンポラリーまでこなす世界的に有名なガムラングループ、スダマニのメンバーとしても活躍中、アメリカ公演にも参加。



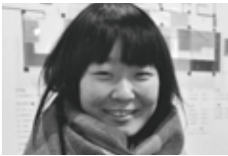
**今津雅晴(いまづまさきはる)**

バントマイム・ダンスなどを学び、本田重春氏・江ノ上陽一氏・木佐貫邦子氏に師事する。SOUKI、néo、レニバツ、コンドルズ、M-laboratory、勅使河原宏、金森穂、北村明子、野田秀樹などの国内外公演に参加する。2005年、文化庁在外研修員として、カナダに留学。その後、ルイズルカヴァリエとの作品において世界各国を廻り好評を博し、2008年よりカンパニー・マリー・シュイナールに参加。スイス、ベルギー等を巡り、2012年より活動の拠点を日本に移す。多才な振付家の作品で踊る傍ら、独特な世界観を追求する。また、Gyrotonic、Gyrokinesisのトレーナーとしての免許を取得する。2016年、自身のユニット『猿目』を結成。



**田中望(たなかのぞみ)**

仙台市出身。画家/東北芸術工科大学大学院博士課程芸術工学専攻。フィールドワークや文献調査を行い、自然との関わりの中で営まれてきた暮らしや生死観を描く。2014年山形ビエンナーレ<芸術ラボ>にて、アシスタントティーチャーを務め、自身も創作芸能を踊る。



**小泉ちづこ(こいずみちづこ)**

バリ舞踊家。バリ舞踊教室/企画チブタ・プミ主宰。横浜生まれ。劇団民藝(みんげい)を経て、2001年から2年間インドネシア国立芸術大学舞踊科に留学。生命のルーツ、根源的な祈りの喜びを大切に、舞踊家として古典形式と作品の世界を探求し続ける。近年ではバリ舞踊形式を用いての新たな表現の模索とバリ舞踊の枠を外した舞踊の試みを展開していくとともに創作活動にも力を注いでいる。http://www.muse.dti.ne.jp/c-bumi/



三陸国際芸術祭 (SANFES) 公式ホームページ

http://sanfes.com

Sanriku-Asian Network Project (サンプロ) 公式ホームページ

http://sanfes.com/sanpro/



三陸国際芸術祭  
SANRIKU INTERNATIONAL  
ARTS FESTIVAL